都市デザイン研マガジン　vol.119

Urban Design Lab. Magazine

2010. 3.24

東京大学都市デザイン（西村・北沢・窪田）研究室
工学部都市工学科／工学系研究科都市工学専攻
http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/index-j.html

編集長　：菊地原徹郎
編集委員：中島和也　藤井高広
阿部正隆　櫻庭敬子　鈴木亮平　山下航司

それぞれの思いを胸に旅立つ ―研究室への置き手紙

Starting out in life with their own hope -letters for the Lab. members

3月24日（水）、平成21年度の学位記授与式が行われました。都市デザイン研究室では博士課程1名（金）、修士課程7名（菊地原、竹本、土信田、中島、西川、藤井、六田）、空間計画研究室では修士課程4名（市川、全、佐古、佐藤）の計12名が研究室を巣立ちました。同時に、今年度をもって中島先生、野原先生がご栄転されることから、総勢14名が研究室から旅立たれることとなりました。
旅立たれる皆様から研究室への置き手紙を頂きました。

There was a completion celenomy of a doctor's and master's course,on 24th March.This year, from Urban Design Lab.,one doctor's course student and seven master's course students completed. And also,from Spatial Planning Lab.,four master's course students completed it.Two teachers,Nakajima and Nohara lecturer are promoted to a higher post of other university.They left letters for the Lab. members.

卒業生からの置き手紙

竹本 千里／Chisato TAKEMOTO

『論文のために研究するのではなく、やってきたことが自ずと論文になる』という西村先生のお言葉に衝撃を受けてから二年。論文に限らず、足助や高山のPJ、読書会、構想力など、終始河川に関わった二年間でした。本当にお世話になりました。

西川 亮／Ryo NISHIKAWA

この2年間を思い出すのに苦労する。記憶に残っていないのではない。あまりに充実し、盛り沢山の経験を積んだ2年だったからだ。後輩の皆様、2年間を全力で駆け抜けるべし！大きく成長できる環境がこの研究室にはあります。

藤井 高広／Takahiro FUJII

研究室での生活は本当に沢山のことを学ぶことができました。特に『選択肢を選べるとしたら君達は何を選ぶのか。それが言えないのなら物事は動かない』という言葉が自分にとっては非常に印象的でした。自分は何が大事で何が大事でないのか。社会に出ても常に考え、行動していきたいと思います。2年間という短い間でしたが本当にありがとうございました。

金 宗範／Jong-bum KIM

6年の留学を通じて、都市デザインはもちろん、様々な文化や幅広い考え方など、多くを学ぶことができました。私の何よりも大きな財産は、ここで知り合うことができた多くの人たちです。今後も多くの後輩たちが都市デザイン研究室という恵まれた環境で、多くの人と触れ合い、多くを学びながら成長していくことを願います。長い間お世話になりました。ありがとうございます。

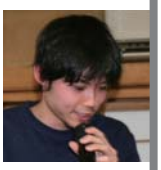
菊地原 徹郎／Tetsuro KIKUCHIBARA

自分がこの2年間やれたことなんて本当にちっぽけなことだけど、回り回って、研究室の何かを、都市のどこかを、少しでも良く出来たら幸せです。素晴らしい人材に囲まれた研究室にどっぷりお世話になった2年間。本当にありがとうございました！

土信田 浩之／Hiroyuki DOSHIDA

プロジェクトに論文、またその他の活動を通して、とても充実した2年間を過ごすことができました。
ありがとう。

中島 和也／Kazuya NAKASHIMA



二年間いろいろな方にお世話になりました。自分の学びたいことを学ぶことができたことに満足しています。これからは研究室の志すところに少しでも貢献できるよう頑張っていきたいと思っています。

六田 康裕／Kosuke ROKUTA

東京にほど近い場所に住んでいると、玄関の一歩外はもう、完膚なきまでに都市なわけで、人々が集まってできた都市について学ぶことが、彼らの多様なバックグラウンドに触れることにも繋がる、このことがひたすら楽しい2年間でした。皆さんありがとうございました。

（→裏面は他大学へ栄転する助教の先生方からのメッセージです）

助教陣からのメッセージ -研究室への置き手紙(後編)

Left letters from two assistant professors, Dr.Nakajima and Dr.Nohara

他大学へ栄転される中島先生、野原先生からも研究室に向けたメッセージを頂きました。

中島 直人 助教

写実でも記号でもなく、数字でも言葉でもなく、淡い水彩画のように都市を捉えたいと思って、高校生の頃から憧れていた都市工に進学した。都市工では、設計演習と都市デザイン概論を通じて、二人の先生と都市デザイン研究室に憧れた。卒論以降、研究室の仲間たちと過ごす間に、都市への憧れは止めどなく膨らんだ。ずっと夢を見て、幸せだったな、どうも有難う。

野原 卓 助教

都市デザイン研究室での約7年間(設計事務所時代を除き学生時代入れると10年間)は、私の青春そのもの。都市のミライを仲間とともに考え、悩み、頭を手を足を動かす日々は、輝くものでした。皆さんも、悔いの残らないよう、そして、少しでも、まちに幸せの花が咲いてゆくように、全力で青臭い春を邁進し続けてください。

"北沢"サロン方式で先生を偲ぶ

Event commemorating Dr.Kitazawa @ UDCK

3月23日(火)、「北沢先生を偲ぶ会」が、3月14日の本郷での会に続き、晩年の活動の中心であったUDCKで開催され、100名以上の関係者や柏市民がKサロン形式で和やかな雰囲気のもと進められました。

text_suzuki

前半の部は、北沢先生の柏の葉での活動をスライドで紹介した後、大学や自治体など、先生の活躍を側で見ていられた方から、先生との思い出が語られました。後半の部では、食事・お酒を取りながら交流・懇親を深めるという、北沢先生が最も大切にされていたKサロンという形式をとり、和やかな雰囲気のもと進められました。北沢研の1～3期生が集まり、北沢先生への思いを語られた場面は特に印象的でした。最後は、今年でUDCKを離れられる前田副センター長、丹羽ディレクターへ花束が送られると同時に、来年度の体制が紹介され、UDCKの新たな一歩が踏み出されました。北沢先生の思いは、UDCKをはじめ、様々なところで受け継がれています。北沢先生が生んだ、都市を動かす大きな流れを感じた会でした。

▲北沢研1,2期生によるスピーチ

プロジェクト報告

Project Reports

年度末は各プロジェクトの総括の時期。報告会、報告書作成のピークです。

神楽坂 最後まで盛りだくさん、神楽坂PJ

D1 松井 大輔

▲D中島の話術が聴衆を引きつける

「神楽坂キーワード第2集-粋なまちづくり過去・現在・未来」が2月25日発売になりました。神楽坂を愛する数十名の熱い思いが寄せられたこの本に、これまた神楽坂をこよなく愛する私たちも参加。今年の調査成果を載せています。
また3月12～14日にはD中島が中心となり**「地図カフェ」**を開催。たくさんの人と神楽坂について議論し、改めて神楽坂の奥深さを知った3日間でした。

足助 次年度へ向けた課題が見つかる

text_kikuchibara

▲M1永野のプレゼンテーション

2年目の活動を総括する報告会が、3月17日(水)豊田市役所足助支所で開かれました。西村先生も臨席され、「塩の道を日常の中心線とする」と題し、昨年度の観光主体の調査提案から、今年度は町の骨格となる塩の道沿いの生活についての示唆を行いました。4月から景観計画が施行され足助のまちづくりが大きく動き出そうとしている中で、東大チームがどのように関わっていけるか認識を深めた1日でした。

佐原 走り続けた佐原PJの総括実施

text_sakuraba

▲M1大熊のプレゼンテーション

3月19日(金)、香取市役所にて多くの市職員の方やお世話になった地域住民の方に今年度の活動報告会を行いました。今年度は、回遊性向上、町家活用、駅前再生、夏の灯りのイベントと、盛り沢山なテーマに、挑戦してきました。が、がむしゃらに取り組んできた感も否めません。
4月からは、新たに加わるメンバーとともに、まちの歴史を空間に落とし、まちを読み解くことにトライしたいです。

都市デザイン研究室 情報欄

おしらせ 新年度活動報告会

日時:4月13日(火)16:30～(場所:未定)

新M1や研究室への進学を考える方(内部、外部問わず)に向けて、研究室の活動を紹介します。詳細はHPでご案内します。
問い合わせは Tel 03-5841-6224(都市デザイン研究室)

▲昨年度の報告会の様子

4月の予定

4月13日 研究室活動報告会+研究室会議+新入生歓迎会
4月22日 神楽坂キーワード第2集出版記念会
@東京理科大学森戸記念館

編集後記

都市デザイン研マガジン第5代編集長
菊地原 徹郎

1年間ご購読ありがとうございました

今号を持って、現編集体制でのマガジン発行は終わりです。1年間ご購読頂きありがとうございました。今年度初頭に1.編集部自ら取材を行い、主張ある記事づくりを行う 2.定期発行を死守する 3.留学生に向けてタイトルと要旨の英語併記を行う の3つを掲げましたが、どの程度達成されたでしょうか?

しかし、その目標よりも100号記念号を作る際、歴代の編集長の方々、先生方からマガジンに対する思いを聞く内に、自ずと「外部に向けた公報媒体としての研究室マガジン」、「マガジンに関わる人々をより多くする」ことの2点に、より焦点が移って来ました。それらの表れが、OBOGコーナーであり、留学生コラムです。この意識は常に持って活動して欲しいと思います。

来年度、阿部新編集長の下、新体制に移行する研究室の「沸き立つようなマグマ」を伝えきれるよう、より高みを目指して頑張ってほしいです。

研究室マガジンをこれからもよろしくお願いします。